

夢窓幼稚園通信第13号

2019年 5月 31日

遠足のクラスの列から 声がかかります。

「えんちようせんせい いくでー！ おくれると まいごになるでー！」

子どもたちの列のまわりを いたりきたりしながら、やりとりをたのしむ合間に、少し横道にそれで、例えば気になる花を眺めていたら、こんなふうは、何と年少の女の子が、まるでお母さんか大きなお姉さんみたくは 声をかけてくれました。

入園から ふた月、赤バッチさんもすっかり頼もしく、新しい黄色バッチさんもニコニコです。

年長さんも どんどん青バッチさんらしくなっています。

新しく来た おひさまを「ようこそ！」とお迎えしたみんなが、春の風の中で 大きくなってきて「ありがとう！」です。

ひとつひとつの時が それぞれ大切なんですわ。

子どもたちは、キラキラとおいしそうに4月のおひさまの光の中でうれしそうに輝いていました。

風鈴の音に身を傾けたり風車を持って走ったり、おにごっこで汗びっしょりになって涼んでいるときは、たっぷり風のはたらきや力を感じあるときは自分自身が風になって「ありがとう」って過していたかもしれません。

自分の外側の世界のこと、自分の内なることとして暖め込みそのものとして生き、自らの世界をふくらませているのでしょ。だから 子どもたちの言葉や表現は、少し不思議に見えるときもありますが、あふれるような思いとエネルギーが満ちみちていていのちいっぱい感じられるのですわ。

6月がやってきます。雨の季節をうれしく迎えたいと思います。雨で庭でかっぱい走り回れないときは、どんな遊びが見つかるでしょうか。雨の日ならではのたのしみもあることでしょう。雨の季節の花や虫や鳥や・・・成長する植物の姿。空の様子、雨あがりの冒険！ 色や匂いは？ 毎日が「みつけようのおまつり」みたいですね。

園長 針光 泰雄